一高絵画資料の概要

はじめに

現在、東京大学駒場博物館には、教養学部の前身である一高（第一高等中学校[1]）時代より受け継がれてきた明治期の絵画が所蔵されている[2]。当時、開校間もない東京美術学校（現、東京芸術大学）の成立に深い関わりを持つ画家たちにより制作された。これらの作品は、上代から江戸時代に至るまで歴史上の重要人物、菅原道真、坂上田村麻呂、西行、徳川家康、さらに、朝賀や祭礼、騎射など公家や武家の有職故実に基づく儀礼、蒙古襲来や大阪夏の陣など歴史に取材したいわゆる「歴史画」が多くを占めており、歴史の教材としての役割も担っていたと考えられる。

この報告書は、作品についての基礎的なデータを掲載することを主な目的としながら、これまで広く公開されることのなかったこれらの作品の特徴を、当時の一高、東京美術学校（現、東京芸術大学）や東京帝国博物館（現、東京国立博物館）などをめぐる美術界の動きに着目しながら、明治期の「歴史画」について概観しておきたい。

１、一高の絵画コレクション

（１）現在駒場博物館に所蔵される作品

現在、駒場博物館に所蔵される一高から受け継いだ絵画コレクションは形式上大きく四つに分類できる[3]。

一点目は、大画面の額装の作品であるが、小堀鞆音による「菅公図」と「田村将軍図」、「大阪後役之図」[4]、天草神来「大阪夏陣図」の四点である。特筆すべきは、小堀鞆音の「菅公図」および「田村将軍図」であり、後述するように一高時代においては文武両道の模範として倫理講堂に掲げられていたことが知られている。

二点目は、大画面軸物で、巨勢小石「大塔宮図」、橋本雅邦「西行法師之図」、川端玉章「八幡太郎図」、下村観山「蒙古襲来之図」、川辺御楯「衣笠合戦金子兄弟奮闘之図」の五点である。歴史的に著名な出来事に取材して描いた大作で、人物の肉体描写や臨場感あふれる描写に特徴がある。明治期に急速に描かれるようになった「歴史画」というジャンル

---

1 学制の制定された時期により、第一高等中学校、第一高等学校など呼称が異なるがここでは「一高」の名で統一する。

2 第一高等学校の絵画コレクションについては、亀井高孝『葦蘆葉の屑籠』（時事通信社、1969 年）、小堀桂一郎「旧一高所蔵の歴史画に就て」（『比較文化研究』第 14 輯、東京大学教養学部、1974 年）、石渡美江「黎明期の大学付属博物館（II）―第一高等中学校の歴史参考室について―」（『MUSEUM STUDY 5』明治大学学芸員養成課程紀要、1993 年）における論考がある。

3 ここでは明治期の日本画のコレクションについてのみ扱うが、駒場博物館にはほかにも岡田三郎助「小島憲之先生像」などの洋画も数点残されている。

4 第三回内国勧業博覧会で妙技三等賞を受賞しその後第一高等中学校の買い上げとなる（『鞆音遺響』（私家版、1931 年。『鞆音遺響』については小堀桂一郎「旧一高所蔵の歴史画に就て」『比較文化研究』第 14 輯、東京大学教養学部、1974 年による）

自体の登場を考える意味でも重要な作品群と言えるだろう。

三点目は、簡素な軸装の小画面軸物二十点である。これらの作品に特徴的なのは、そのほとんどが、歴史上の人物や風俗を描いており、筆者名とともに「福地復一撰」と記されていることである[5]。

四点目は、絵巻物（模写も含む）四点である。大石真虎「朝賀図」、横山大観「絵師草紙」（模写）、筆者不詳「日光山」関係の作品が二点である。

駒場博物館に現存するこれら計三十三点作品以外にも、当時の資料に記載されていながら現在は失われた作品もあるが、これらの作品の受入の時期は、明治二十五年から二十六年がほとんどであり、その後、二十七年に一点（横山大観「絵師草紙」模写）、二十八年に一点（「家康之図」）、明治三十三年に一点（天草神来「大阪夏陣図」）が追加的に購入されている[6]。

（２）制作に携わった画家たち

一高の歴史画のコレクションは、東京美術学校にゆかりのある画家たちによって制作された。特に、画家の流派については、巨勢小石、川辺御楯などの土佐派・巨勢派（藤原時代）、橋本雅邦に代表される狩野派（東山時代）、川端玉章などの円山派（徳川時代）といった、日本美術の代表的な流派および各時代様式をそれぞれ体現していることが指摘されている[7]。

なかでも、橋本雅邦、巨勢小石、川端玉章などは当時の東京美術学校や東京帝国博物館との関わりも深い指導的立場にあった画家であり、下村観山、横山大観、天草神来、亀岡末吉は、明治二十五年前後には東京美術学校の生徒であった。安藤広近は東京美術学校の教科用図画模写を担当したことが知られている。石本秋園は明治二十八年、美術育英会主催の蜂須賀家新築洋館室内装飾の図案審査会で一等を受賞した画家である[8]。

小堀鞆音は、東京美術学校において教科用絵画取調や考古学の事業の嘱託を受けた川崎千虎の門であるが、後述のように岡倉天心が関わった帝国博物館の模写事業に参加した。「衣笠合戦金子兄弟奮闘之図」を制作した川辺御楯は、東京美術学校派の画家ではないが、当時、東洋絵画共進会の審査員を務めていたことが知られる。

（３）当時の美術界をめぐる状況

では、当時の美術界をめぐる状況を少し確認しておこう。一高が明治二十五年から二十六年にかけて購入した作品のほとんどは、明治二十年に設置された、開校間もない東京美術学校に関わりのある画家たちが手掛けたことは確認してきた。この時代は、他にも美術

---

[5] 菅原元雄「田村麻呂之図」は「福地復一撰」を伴わず絹本着色のため少し趣向の異なる作品である。

[6] 一高資料「軸物類書留簿」からこのほかにも豊臣秀吉、織田信長、北条早雲、武田信玄の肖像画がかつては存在したことが知られる。

[7] 前掲小堀論文。

[8] 『東京芸術大学百年史 東京美術学校第一巻』1987 年、『岡倉天心―芸術教育の歩み』東京芸術大学、2007 年および前掲石渡論文参照。

に関わるさまざまな制度が整えられた時期であり、明治二十一年には、宮内庁に臨時全国宝物取調局が設置され、委員長に九鬼隆一が就任し、翌二十二年には、岡倉主導のもと日本美術に関する最初の雑誌、『國華』も創刊された。

岡倉によって日本美術に関する初めての講義が行われた明治二十三年には、第三回内国勧業博覧会が開催され、帝室技芸員制度も設置された。特に注目したておきたいのは、この頃から岡倉を中心に帝国博物館と東京美術学校の模写事業が始まったことであり、小堀鞆音は四天王寺の扇面法華経などを手掛けた。また、一高絵画資料の軸物を制作した住吉広一、山名義海も明治二十八年よりこの模写事業に参加をしていた[9]。

一高絵画の作品は、当時の東京美術学校派とも言うべき「正統正系」の日本画の流れに属する画家に依頼されたものであり、当時、急速な西欧化を目指していた日本の状況に警鐘を鳴らした、フェノロサや岡倉天心らによる西洋美術を排斥し日本古来の伝統美術を称揚する国粋主義的な動きとも連動するものであった[10]。

ここで政治的背景についても少し見ておくと、明治二十年代前半は、大日本帝国憲法や、教育勅語、小学校令発布などの教育制度が整っていく時期であり、特に、明治二十三年の教育勅語により倫理教育の重要性が説かれていったことには留意すべきである。『第一高等学校六十年史』によれば、「二十三年十二月二十五日教育に関する御宸署の勅語を拝戴するの光栄に浴したり。また田村将軍並びに菅公の図を描かしめ、倫理講堂正面に掲げて生徒の訓育に資せんとする所ありき」とあり、教育勅語が発布される風潮のなかで、小堀鞆音により作成された「田村将軍」と「菅公」の図が倫理教育の上で重要な役割を担っていたことが窺われる[11]。

ではこうした状況下において、これらの絵画を購入した当時の一高の状況について次に見ていきたい。

２、一高の教育思想と絵画

（１）一高と校長・木下広次

一高の起源は東京英語学校に遡る。明治十年（1877）に東京大学予備門となり、明治十九年の中学校令公布により第一高等中学校[12]となる。一高絵画資料がまとまって購入された明治二十五年から二十六年は、この第一高等中学校時代である。

明治二十二年五月から同二十五年六月まで一高の校長を務めた木下広次は、後に文部省を経て、京都大学初代総長となる人物であるが、木下校長こそが一高絵画資料の購入にとって重要な役割を果たした人物である[13]。木下校長の就任演説[14]には西欧化に伴い低下した

---

[9] 恵美千鶴子「扇面法華経冊子模本―岡倉天心・小堀鞆音と帝国博物館の模写事業―」『東博雑誌』(621)、2009 年 8 月。

[10] 前掲小堀論文 7 頁。

[11] 『第一高等学校六十年史』99-100 頁および 107 頁。

[12] 『第一高等学校六十年史』第一高等学校、1939 年。

[13] 木下広次についての研究は、自治寮について中心に研究がある。東京大学駒場博物館および京都大学大学文書館には木下広次関係の文書が残されている。明治 21 年（1888）に *Ancien Japon* を執筆しているこ

倫理を回復すべく「武士道」的精神に基づく「倫理教育」の重要性が説かれ、自治寮の設置がなされたのも木下校長の意向によるものであった[15]。

学校教育のカリキュラムとして倫理や歴史教育の重要性が強く意識されたのもこうした背景のなかでのことである。当時、日清戦争以前の高校（高等中学校）の本科の学科課程には日本史の授業はなく、欧米の歴史のみであったことを受け、カリキュラムとして歴史の科目を設置することが要請された。

（２）一高の「倫理講堂」と「歴史教室」

絵画蒐集事業はほぼ木下の任期中であることはすでに述べたが、購入された絵画は、歴史の教材としての歴史参考室へ陳列されることを目的としていたようである[16]。

『六十年史』には、木下校長の就任演説の抜粋および附言が載せられているため以下に引用しておく[17]。

> 附して言ふ、また木下校長時代に歴史参考室なるもの設けられ、國史上著名の人物または事件並びに風俗等の図絵を聚めて國史の参考資料たらしめんとし、当時出色の画家をして描かしめしことあり。不幸にしてその業爾来発展を見ず中絶せるも、左記の如き大作以下多数の図絵なほ今日に存して図書館に在り。うち田村将軍並菅公之図は恆に倫理講堂に掲げ来れり。

一高が蒐集した「国史上著名の人物または事件並びに風俗等」の絵画は、当時の「出色の画家」により描かれた。そしてそれらの作品は、歴史の参考資料として歴史参考室に置かれたのであった。なかでも、小堀鞆音により描かれた菅原道真および坂上田村麻呂の肖像は倫理講堂に掲げられ、倫理教育の一端を担っていた。

このように、西欧化に伴う倫理の低下を訴え、日本歴史教育を通じた倫理講堂および歴史参考室を推進した木下校長の思想は、当時、社会の秩序と結びつけながら日本美術の精神性を打ち出した岡倉天心らの意識とも重なり合うものであったことは明らかである。

では、次章ではこれまで検討されてきていない図像の特徴について考察することで、一高絵画の「歴史画」としての側面を見ていきたい。

３、歴史教材としての絵画（歴史を語る絵画）

（１）小堀鞆音の「菅公図」と「田村将軍図」

小堀鞆音は明治二十二年十月に、「第一高等中学校の嘱に依り、文武両官の二大画像を描

とからも文化面の活動についても研究が必要である。

[14] 『第一高等学校六十年史』99-100 頁および 107 頁参照。

[15] 富岡勝「旧制高校における寄宿舎と「校友会」の形成―木下広次（一高校長）を中心に―」『京都大学教育学部紀要』第 40 号、1994 年。

[16] 前掲小堀論文および石渡論文。

[17] 『第一高等学校六十年史』99-100 頁および 107 頁参照。

く」と記録している[18]。小堀桂一郎氏は、明治二十二年は明治二十三年の誤りだと指摘したうえで、もし十月が正しければ、明治二十三年十月に発布された教育勅語との関連で、「菅公図」と「田村将軍図」は成立したとする[19]。つまり、菅原道真と坂上田村麻呂という古代日本の文武両官の図を倫理講堂の教壇に掲げて倫理の授業が行われるようになった経緯をたどれば、教育勅語の発布に伴い、一高では同年十二月二十五日に明治天皇宸筆の勅語が下賜され、続いて、二十四年一月九日には倫理講堂にて拝戴式が行われており、このことからも二つの作品は教育勅語の記念として依頼された可能性がある。

では、次に「菅公図」と「田村将軍図」の構図について見ていこう。「菅公図」は、菊池容斎『前賢故実』から図像を引用している[20]。『前賢故実』は、幕末期から明治初期にかけて活躍した菊池容斎が、古代から南北朝時代における歴史上の重要人物、五七一人を描き全十巻にまとめたものである。興味深いことは、菊池容斎の描く歴史人物は、明治初期の画家たちにとって模範となっていたことであり、それゆえ、歴史上の人物を描く際には『前賢故実』が参照されることが多かった。実際、一高の菅原道真を描く「菅公図」についても、『前賢故実』を参照にしたと思われる極めて類似した図像が当時の歴史の検定教科書の挿絵に共有されている[21]【図】。一方、「田村将軍図」については、検定制下の歴史教科書『小学校用 歴史』（辻敬之、福地復一編、明治二十年）の挿絵の図様と類似していることを指摘できる【図】。

ここで留意しておきたいのは、菅原道真や坂上田村麻呂という歴史上の人物像が、歴史の検定教科書におけるそれと著しく類似していることである。しかも、上述の教科書の編集を担当しているのは福地復一であることも見逃せない。福地復一は、岡倉天心が明治三十一年に東京美術学校を去ることとなった美術学校騒動の際の黒幕として知られている人物であるが、一高絵画が描かれた当時においては、福地を美術学校に招いたのも岡倉であったし、先述の模写事業において重用していたことも知られおり、当時の日本美術を語る際に欠かせない存在として注目される。

一高の歴史画の小画面軸物に「福地復一撰」と記された作品が多いことから、福地が何らかの形で作品の選定に関わったことは明らかである。さらに、そもそもこれらの絵画が歴史参考室に陳列されるために集められた歴史の教材としての作品であったことに鑑みれば、歴史教科書の挿絵と図様が類似することは何も不自然なことではない。

では以下に、他の一高絵画作品についても歴史教科書の挿絵と比較をすることで両者の間における図様の関係について見ていきたい。

（２）一高絵画と歴史教科書の挿図の比較

---

18 『鞆音遺響』（私家版、1931 年）（前掲小堀論文 5 頁による）

19 前掲小堀論文 5 頁。

20 塩谷純「菊池容斎と歴史画」『国華』1183 号、1994 年 6 月／塩谷純「歴史画のつくりかた 菊池容斎の『前賢故実』」IS (85)、2001 年／『菊池容斎と明治の美術』展図録、練馬区立美術館、1999 年。

21『小学日本歴史』（金港堂、）『高等小学歴史』（明治二十四年）など。

まず、「福地復一撰」と書き入れのある小画面軸物について見ていくと、石本秋園「大礼服着御之図」（72-18）は、『高等小学歴史』（明治二十四年）や『尋常小学　日本小歴史』（明治二十四年）に掲載された後三条天皇像と極めて近い図様であることに気が付く。さらに、小堀鞆音「豊臣時代武人之図」（73-24）は、『高等小学古今事歴史大要』（田中登作、巻二）を紐解くと、楠木正成とその嫡男正行の対話場面であることが判明する。もちろん、これらの図像と一致することは必ずしも一高絵画の題目が誤っているということを意味しないが、一高絵画が購入された当時より時代が下ってから付箋が付された可能性も捨象できない。

また歴史上の著名な人物以外にも、たとえば『小学日本史』には「牛車之図」や「源氏物語時代宮人ノ図」、「山法師」など時代別の風俗が多く描かれているが、これらは、山名義海「源平時代譜紳家下車之図」（72-11）や同「鎌倉幕府時代山僧之図」（72-17）などのような作品と同じ趣向を持つと考えられる。同様に、「朝賀図」についても一高絵画には大石真虎の描く絵巻（72-16）にはさらに多くの場面が含まれている【図】。当時、東京美術学校においても教鞭をとっていた川崎千虎は、大石真虎に私淑し、門下には小堀鞆音も輩出しており、有職故実に基づく歴史画を描いていたことが知られている[22]。このような日本史上の著名な人物や各時代の風俗を有職故実に基づき描く歴史画は、当時の画家たちにとって重要な課題であった。

このように画家が歴史の教科書の挿絵を描き、ひいては、時代の要請する歴史画というテーマに果敢に立ち向かっていた状況は、大画面の作品を見ていくことでよりはっきりとしてくる。巨勢小石「大塔宮図」（72-2-2）は『幼学大綱』、『小国民』、『小学帝国史談』（明治二十五年、太田百祥編纂）、『高等小学歴史』（明治二十四年）などにもほぼ同様の図様を確認できる。また、川端玉章「八幡太郎図」（72-4）については、『小学校用　歴史』（明治二十年、福地）、『小学国史概要』（明治二十年）、『小学　歴史階梯』（明治十九年「義家雁行ノ乱ルヽヲ見テ伏兵ヲ知ルノ図」）、『小学日本史』（金港堂、明治二十一年）、『高等小学歴史』（明治二十四年）などの教科書の挿絵との類似性を指摘できる。

以上の考察から明らかなように、一高絵画の図様は、福地の関与した明治二十年の『小学校用　歴史』を始めとする検定教科書の挿絵と極めて類似している[23]。しかし残念なことに、一高絵画の制作時期については、小堀鞆音の作品を除いてほとんどが不詳であるため、教科書の挿絵の絵画と一高絵画の前後関係についてはこれ以上詳細な検討ができない。つまり、このような図像が、一高のために描いたものであるのか、それとも歴史用の教科書のために描かれたものを後に一高が買い取ったものであるのかは判然としない。しかしながら、当時の絵画制作というものが（特に、有職故実の知識を必要とした歴史画の場合）、ある程度古画の学習に基づいて行われていたという状況を考慮するならば、歴史教科書の

[22] 瀧悌三「小堀鞆音と土佐派」『美術の窓』26（1）、2007 年 1 月。
[23] 現時点で調べることのできた教科書は教科書図書館所蔵のもののみ。

挿絵も、一高で使用される歴史教室のための掛図も、『前賢故実』などの先行する図像に依拠しながら制作されたことは確かである。この点については今後も追究していきたい。

（３）歴史教科書の「歴史画」と教育用掛図

最後に、明治初期の教科書の挿絵について歴史教育との関わりから検討を加えた上原いづみ氏の論考を参照しながら、教育用掛図が生み出された背景について述べておきたい[24]。明治十五年の『幼学綱要』（明治天皇の内意を受けて編纂され挿絵は松本楓湖が担当）は、それまで使用されてきた翻訳教科書に対して、儒教による忠義忠孝の教えに重点が置かれた。興味深いのは、明治二十三年の小学校令、教育勅語の発布とともに、明治二十四年には「小学校教則大綱」においては視覚教材の重要性が指示されたことである[25]。つまり、それまでは教科書にも挿絵がなく、掛図を使用して授業は行われており、教師用・生徒用の区別が教科書に表示されるようになるのも明治二十五年の文部省告示であるという。

一高の歴史画が、木下校長時代に購入された背景にはこうした時代の要請があったと思われる。倫理講堂や歴史参考室のために制作された掛図は、急速な西洋化の波のなかで将来の日本を担う若きエリートたちの倫理教育や日本史のための教材であった。実のところ一高には、歴史以外にも多くの教育用掛図が残されていることを付け加えておきたい[26]。つまりここで見てきた歴史画は、歴史の教育用掛図であるのだ。

このように木下校長時代に蒐集された絵画は、倫理講堂と歴史参考室において歴史を語るという教育的使命を担っていた。しかしながら、木下校長が作品を購入した具体的な記録についてはこれまでのところ明らかになっていない。そこで末筆ではあるが、木下自らが当時の画家と積極的に関わりながら絵画を蒐集していた様子を示す書簡が京都大学の文書館に所蔵されていることがわかったので、以下に木下広次の書簡を二点紹介しておきたい。一点目は、下村観山から木下校長へ宛てた書簡である。そこには観山が木下校長のために尾形月耕筆の菅公図を斡旋していた様子が記されている[27]。一高では小堀鞆音に依頼されて倫理講堂に「田村将軍図」とともに掲げられていたが、この時期木下は、すでに一高を去り京都大学の学長であったことから、京都大学のために新たな「菅公図」の制作を依頼していた可能性がある。

もう一点は、天草神来から木下校長宛ての書状であるが、そこには年紀が記されていないものの、「戦捷」の記念として天草神来が描いた作品について、買い上げを木下に依頼するものである。この作品とは、おそらく、一高絵画のなかで他の作品が購入された時期からしばらくして追加で購入された「大阪夏之陣図」（明治三十三年に購入）であり、「戦捷」は日清戦争のことであると考えるのが自然だろう。このように木下は、一高を去り京都大

---

24 上原いづみ「明治期歴史教育における『歴史画』の研究」『筑波社会科研究』第 21 号、2002 年。
25 日本歴史ヲ授クルニハナルヘク図画等ヲ示シ児童ヲシテ当時ノ実状ヲ想像シ易カラシメ人物ノ言行等ニ就テハ之ヲ修身ニ於テ授ケタル格言等ニ照ラシメテ正邪是非ヲ弁別セシメンコトヲ要ス（明治二十四年十一月十七日 文部省令第十一号）
26 駒場図書館のホームページを参照されたい（http://gazo.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/ichiko/kakezu/index.html）。
27 京都大学大学文書館木下文書。

学へ移った後も画家に対し作品の依頼や買い上げを行っていた状況が窺えるのである[28]。

おわりに

一高の絵画はまさにこの時代を映す「歴史画」であった。岡倉や福地とも縁の深い東京美術学校を中心とする日本画家たちのよって制作されたこれらの絵画は、明治期の日本が天皇を中心とする歴史叙述の一翼を担っていたのであり、当時の一高、ひいては将来を担う若者への歴史・倫理教育を支える視覚的な教材であった。

明治三十年代はまさに、歴史画とは何かという「歴史画論争」が巻き起こった時代であった。画家たちにとって「歴史画」とは何であったのか。この点については稿を改めて検討したい。また、歴史を描くこと、歴史を語ること、日本史の教育とは何であったのか、明治二十年代の教育制度についてより詳しく検討していかなければならない。

文責：井戸美里（東京大学東洋文化研究所・特任助教）

[28] 京都大学大学文書館木下文書。

登録番号	作者名	作品名	本紙寸法(単位:cm)	材質	一高受入年月日	受入方法	移管元	美術博物館受入年	備考	一高購入金額	
72-1-1	小堀鞆音	田村将軍図(☆)	160.0×147.0	紙本着色	1892年(明治25年)3月25日	移管	教養学部図書館				59円60銭(2点合わせて)
72-1-2	小堀鞆音	管公図(☆)	160.0×147.0	紙本着色	1892年(明治25年)3月25日	移管	教養学部図書館				59円60銭(2点合わせて)
72-2-1	川辺御楯	衣笠合戦金子兄弟奮闘之図(☆)	241.5×145.0	絹本着色	1892年(明治25年)3月25日	移管	教養学部図書館				2円50銭
72-2-2	巨勢小石	大塔宮図(**)	272.0×148.0	絹本着色	1892年(明治25年)3月25日	移管	教養学部図書館				34円30銭
72-3	下村観山	蒙古襲来之図(☆)	160.0×233.5	紙本着色	1893年(明治26年)3月29日	移管	教養学部図書館				50円
72-4	川端玉章	八幡太郎図(**)	236.5×144.0	絹本着色	1892年(明治25年)3月25日	移管	教養学部図書館				50円
72-5	橋本雅邦	西行法師之図(☆)	237.0×139.5	絹本着色	1892年(明治25年)3月25日	移管	教養学部図書館				50円
72-6	小堀鞆音	大阪後役之図(☆)	105.4×220.8	絹本着色	1892年(明治25年)3月25日	移管	教養学部図書館				
72-7	天草神来	大阪夏陣図(☆)	84.0×153.7	絹本着色	1900年(明治33年)10月5日	移管	教養学部図書館	昭和47年12月1日			
72-8	作者不明	日光山御社参道路勝地之景(*)	29.4×1241.4	紙本着色	1893年(明治26年)11月4日	移管	教養学部図書館	昭和47年12月1日		60銭	
72-9	作者不明	日光御祭礼(*)	26.8×1316.3	紙本着色	1893年(明治26年)11月4日	移管	教養学部図書館	昭和47年12月1日		60銭	
72-10	作者不明	家康之図(☆☆)	96.5×31.0	紙本着色	1895年(明治28年)3月31日	移管	教養学部図書館	昭和47年12月1日		9円30銭	
72-11	山名義海	源平時代縉紳家下車之図(*)	76.0×109.0	紙本着色	1892年(明治25年)11月28日	移管	教養学部図書館	昭和47年12月1日	福地復一撰	8円	
72-12	荒木季達	寧楽時代采女之図(*)	81.0×53.0	紙本着色	1892年(明治25年)11月28日	移管	教養学部図書館	昭和47年12月1日	福地復一撰	4円	
72-13	小堀鞆音	豊臣家時代武人図(*)	90.0×60.0	紙本着色	1893年(明治26年)3月27日	移管	教養学部図書館	昭和47年12月1日	福地復一撰	6円	
72-14	住吉広一	藤氏専権時代宮女之図(*)	78.5×110.0	紙本着色	1892年(明治25年)11月28日	移管	教養学部図書館	昭和47年12月1日	福地復一撰	8円20銭	
72-15	下村晴三郎(観山)	元禄年間武家応対図(*)	75.0×98.5	紙本着色	1893年(明治26年)3月27日	移管	教養学部図書館	昭和47年12月1日	福地復一撰	6円50銭	
72-16	大石真虎	朝賀図(*)	91.9×88.5	紙本着色	1892年(明治25年)3月25日	移管	教養学部図書館	昭和47年12月1日		5円50銭	
72-17	山名義海	鎌倉幕府時代山僧図(*)	80.0×55.0	紙本着色	1893年(明治26年)3月4日	移管	教養学部図書館	昭和47年12月1日	福地復一撰	4円50銭	
72-18	石本秋園	大礼服着御図(*)	95.5×63.5	紙本着色	1893年(明治26年)3月4日	移管	教養学部図書館	昭和47年12月1日	福地復一撰	5円50銭	
72-19	大橋月州	鎌倉纂府時代騎射図(*)	78.0×113.0	紙本着色	1893年(明治26年)3月4日	移管	教養学部図書館	昭和47年12月1日	福地復一撰	5円	
72-20	荒木季達	弘仁時代大臣図(*)	81.0×53.5	紙本着色	1893年(明治26年)3月4日	移管	教養学部図書館	昭和47年12月1日	福地復一撰	5円50銭	
72-21	安藤廣近	寧樂朝時代大臣図(*)	76.0×86.5	紙本着色	1892年(明治25年)11月28日	移管	教養学部図書館	昭和47年12月1日	福地復一撰	5円50銭	
72-22	石本秋園	室町幕府時代小児遊戯図(*)	92.5×61.5	紙本着色	1893年(明治26年)3月4日	移管	教養学部図書館	昭和47年12月1日	福地復一撰	5円	
72-23	石本秋園	寧楽朝時代貴公子之図(*)	73.0×65.0	紙本着色	1892年(明治25年)11月28日	移管	教養学部図書館	昭和47年12月1日	福地復一撰	4円	
72-24	石本秋園	弘仁時代内親王之図(*)	120.0×61.0	紙本着色	1892年(明治25年)11月28日	移管	教養学部図書館	昭和47年12月1日	福地復一撰	5円	
72-25	住吉廣一	鎌倉幕府時代婦人旅装図(*)	79.0×60.5	紙本着色	1893年(明治26年)3月4日	移管	教養学部図書館	昭和47年12月1日	福地復一撰	6円	
72-26	石本秋園	上代人物図(*)	92.5×44.0	紙本着色	1893年(明治26年)3月4日	移管	教養学部図書館	昭和47年12月1日	福地復一撰	4円	
72-27	小堀鞆音	源平時代武将図(*)	76.0×90.5	紙本着色	1893年(明治26年)3月4日	移管	教養学部図書館	昭和47年12月1日	福地復一撰	6円	
72-28	小堀鞆音	仁徳帝時代武将之図(*)	54.0×75.0	紙本着色	1892年(明治25年)11月28日	移管	教養学部図書館	昭和47年12月1日	福地復一撰	6円30銭	
72-29	菅原元雄	田村麻呂之図(☆☆)	148.0×56.5	絹本着色	1892年(明治25年)3月25日	移管	教養学部図書館	昭和47年12月1日		3円	
72-30	亀岡末吉	寛文年間美少年若衆ト唱フ図(*)	98.0×74.0	紙本着色	1893年(明治26年)3月27日	移管	教養学部図書館	昭和47年12月1日	福地復一撰、「若衆ト唱フ」は小字	6円50銭	
72-31	横山秀麿(大観)	絵師草紙(模写)	32.5×819.9	紙本着色	1894年(明治27年)4月19日	移管	教養学部図書館	昭和47年12月1日		8円	

※作品名の表記は全て、現代漢字に改めている。

※作品名典拠は以下の通り。

(*)…軸に記載された作品名

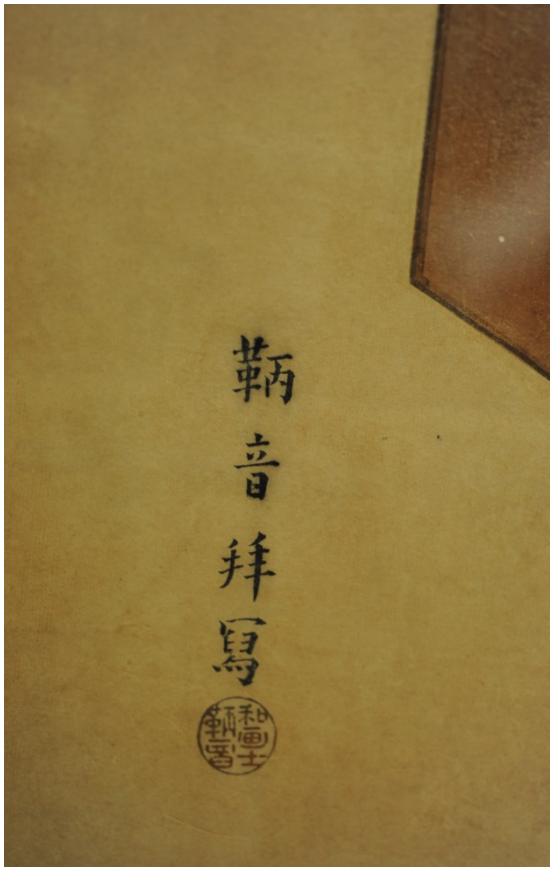
(*)…軸に附属の付箋の記載

(☆)…『第一高等学校六十年史』108頁

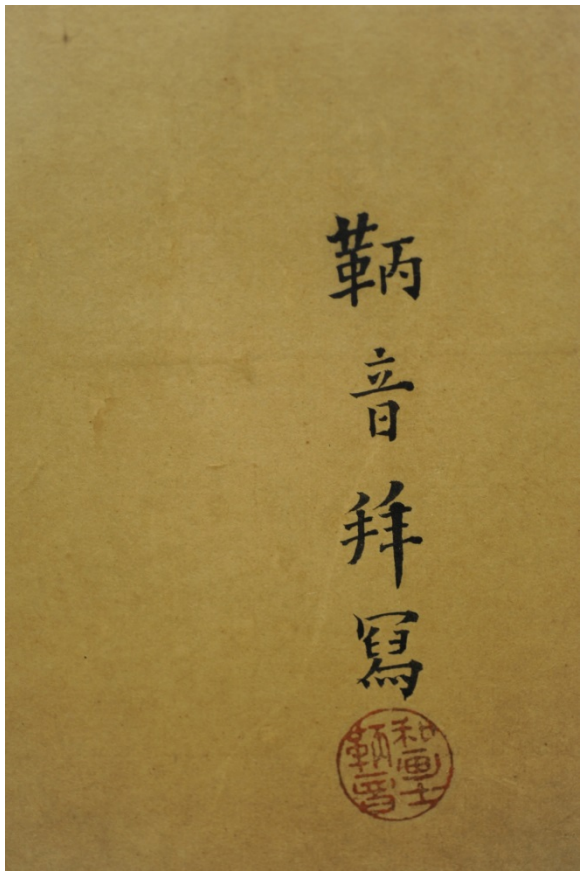
(☆☆)…駒場博物館既存データ(典拠不明)

＊表作成は、駒場博物館既存のデータに基づき中谷有里(東京大学大学院人文社会系研究科修士課程)が行った。

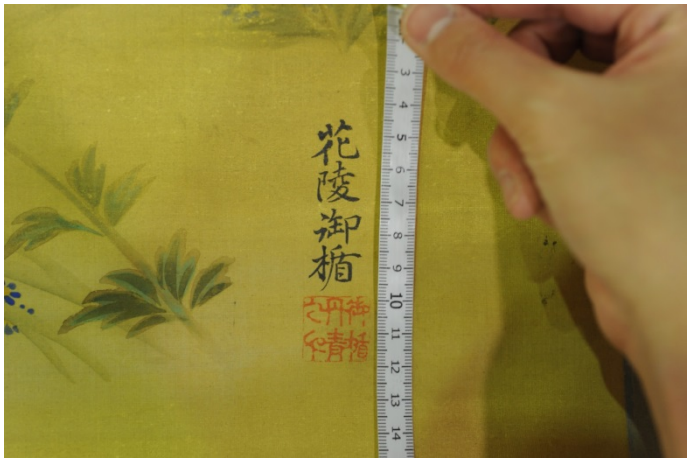
作品番号：72-1-1
作品名：田村将軍図（☆）
作者名：小堀鞆音
法量（単位cm）：160.0×147.0
素材：紙本着色
備考：一高受け入れ年月日　明治25年（1892）3月25日



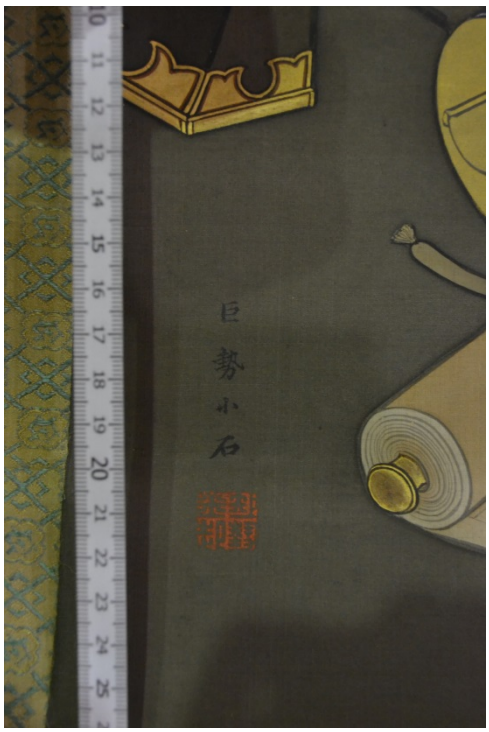
作品番号：72-1-2
作品名：菅公図（☆）
作者名：小堀鞆音
法量（単位cm）：160.0×147.0
素材：紙本着色
備考：一高受け入れ年度　明治25年（1892）3月25日



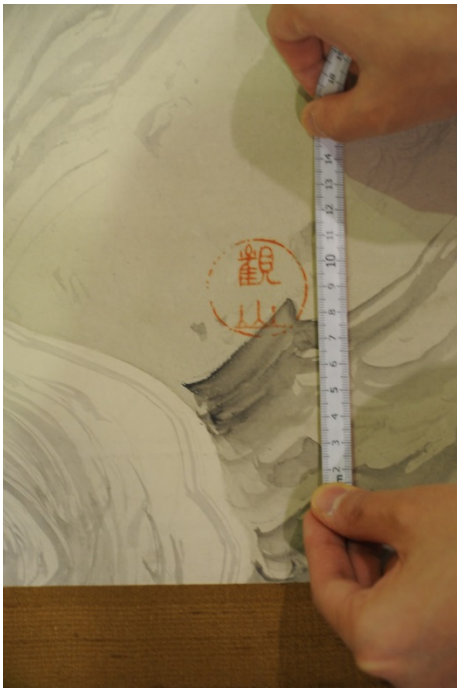
作品番号：72-2-1
作品名：衣笠合戦金子兄弟奮闘之図（☆）
作者名：川辺御盾
法量（単位cm）：241.5×145.0
素材：絹本着色
備考：一高受け入れ年度　明治25年（1892）3月25日



作品番号：72-2-2
作品名：大塔宮図（**）
作者名：巨勢小石
法量（単位cm）：272.0×148.0
素材：絹本着色
備考：一高受け入れ年度　明治25年（1892）3月25日



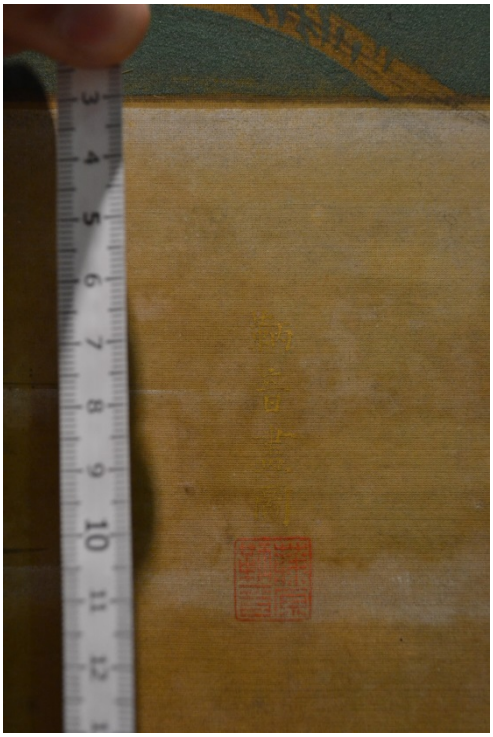
作品番号:72-3
作品名:蒙古襲来之図(☆)
作者名:下村観山
法量(単位cm):160.0×233.5
素材:紙本着色
備考:一高受け入れ年度　明治26年(1893)3月29日



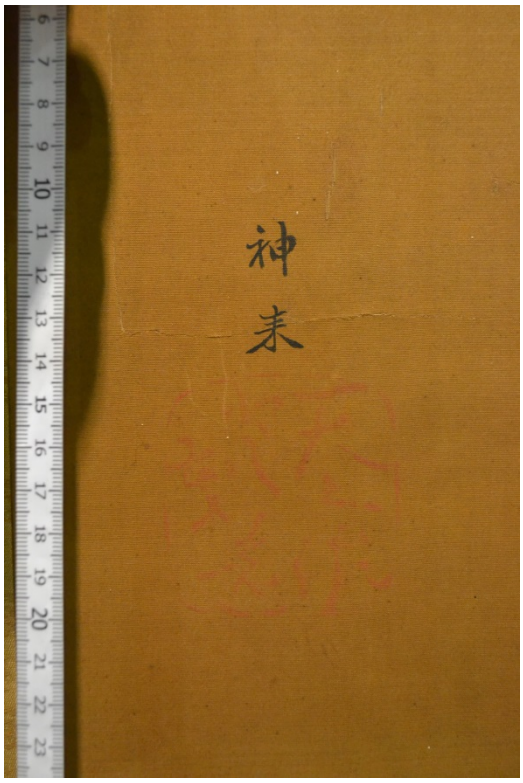
作品番号：72-4
作品名：八幡太郎図（**）
作者名：川端玉章
法量（単位cm）：236.5×144.0
素材：絹本着色
備考：一高受け入れ年度　明治25年（1892）3月25日

作品番号：72-5
作品名：西行法師之図（☆）
作者名：橋本雅邦
法量（単位cm）：237.0×139.5
素材：絹本着色
備考：一高受け入れ年度　明治25年（1892）3月25日

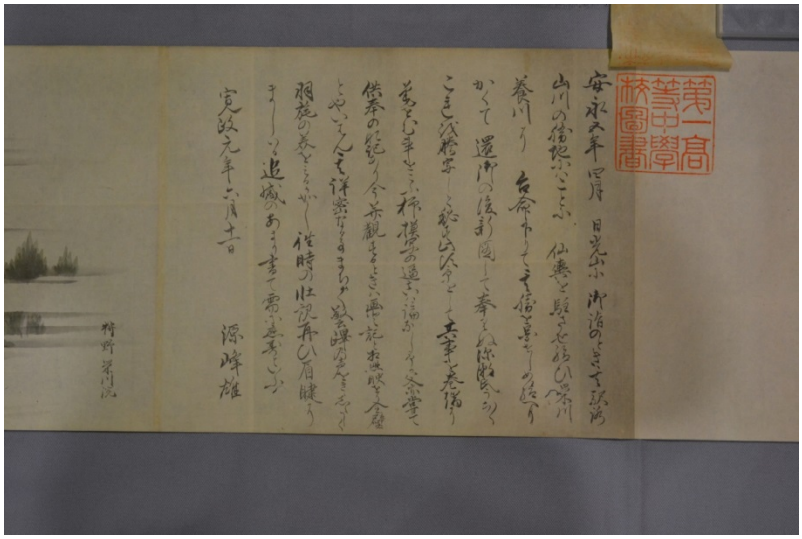
作品番号：72-6
作品名：大阪後役之図（☆）
作者名：小堀鞆音
法量（単位cm）：105.4×220.8
素材：絹本着色
備考：一高受け入れ年度　明治25年（1892）3月25日

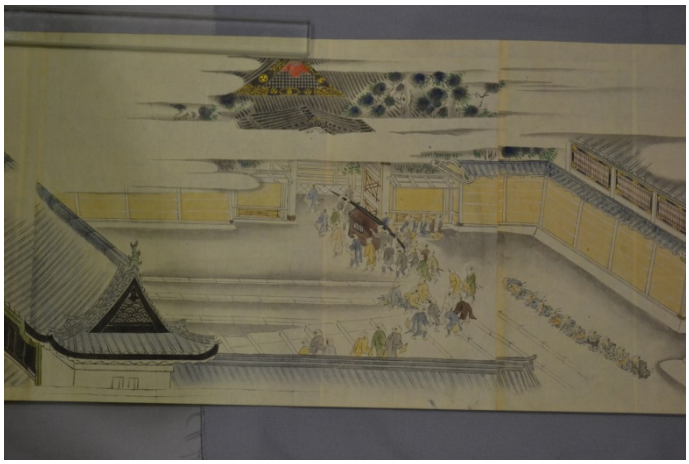


作品番号:72-7
作品名:大阪夏陣図(☆)
作者名:天草神来
法量(単位cm):84.0×153.7
素材:絹本着色
備考:一高受け入れ年度　明治33年(1900)10月5日



作品番号：72-8
作品名：日光山御社参道路勝地之景（*）
作者名：不詳
法量（単位cm）：29.4×1241.4
素材：紙本着色
備考：一高受け入れ年度　明治26年（1893）11月4日

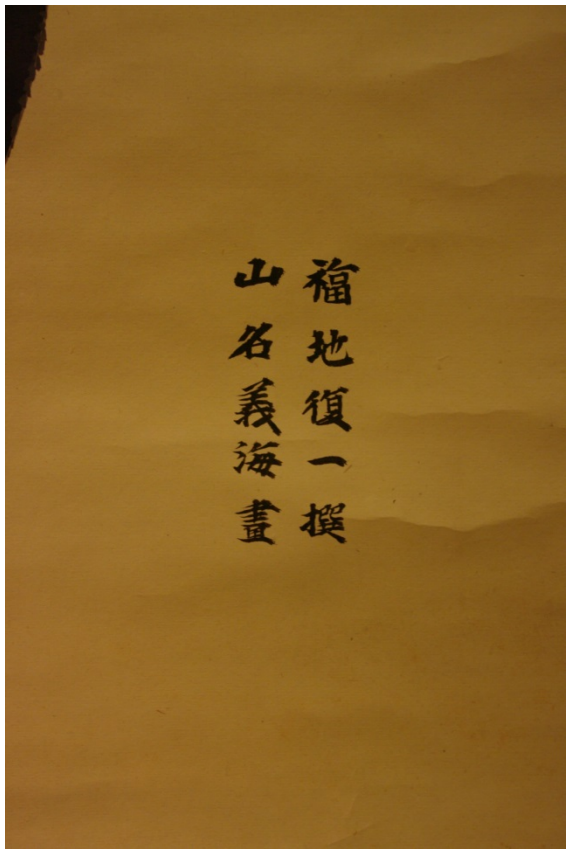




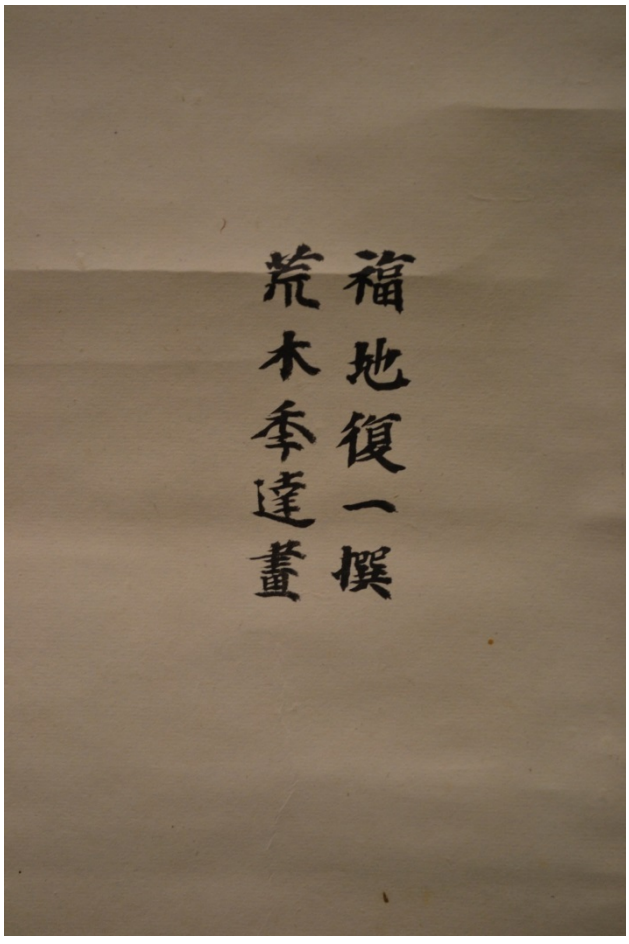
作品番号：72-9
作品名：日光御祭礼（*）
作者名：不詳
法量（単位cm）：26.8×1316.3
素材：紙本着色
備考：一高受け入れ年度　明治26年（1893）11月4日

作品番号：72-10
作品名：家康之図（☆☆）
作者名：不詳
法量（単位cm）：96.5×31.0
素材：紙本着色
備考：一高受け入れ年度　明治28年（1895）3月31日

作品番号：72-11
作品名：源平時代縉紳家下車之図（*）
作者名：山名義海
法量（単位cm）：76.0×109.0
素材：紙本着色
備考：一高受け入れ年度　明治25年（1892）11月28日

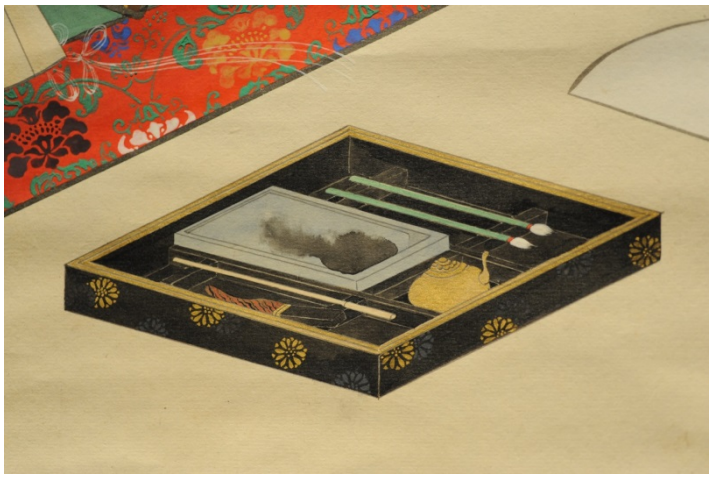


作品番号:72-12
作品名: 寧楽時代采女之図(*)
作者名:荒木季達
法量(単位cm):81.0×53.0
素材:紙本着色
備考:一高受け入れ年度　明治25年(1892)11月28日

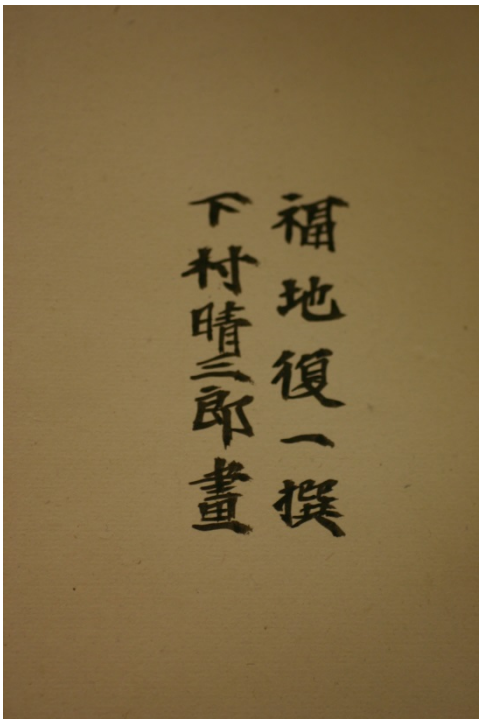


作品番号：72-13
作品名：豊臣家時代武人図（*）
作者名：小堀鞆音
法量（単位cm）：90.0×60.0
素材：紙本着色
備考：一高受け入れ年度　明治26年（1893）3月27日

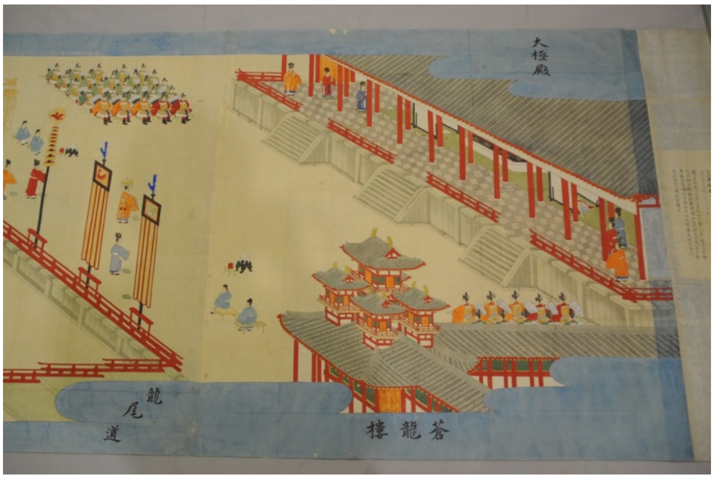
作品番号：72-14
作品名：藤氏専権時代宮女之図（*）
作者名：住吉広一
法量（単位cm）：78.5×110.0
素材：紙本着色
備考：一高受け入れ年度　明治25年（1892）11月28日

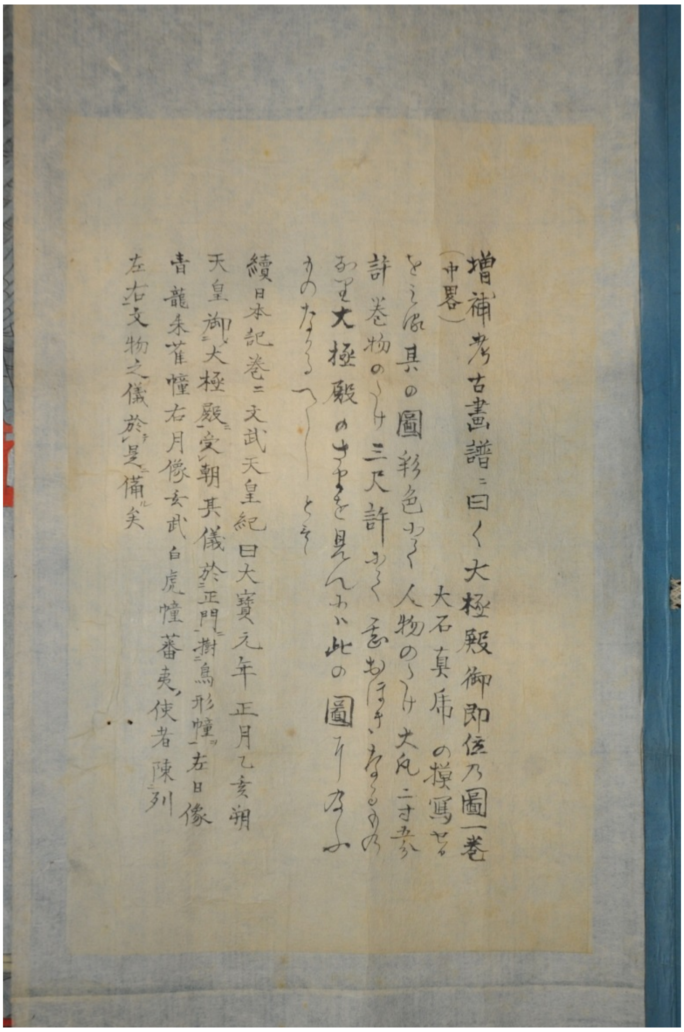


作品番号：72-15
作品名：元禄年間武家応対図（*）
作者名：下村晴三郎（観山）
法量（単位cm）：75.0×98.5
素材：紙本着色
備考：一高受け入れ年度　明治26年（1893）3月27日

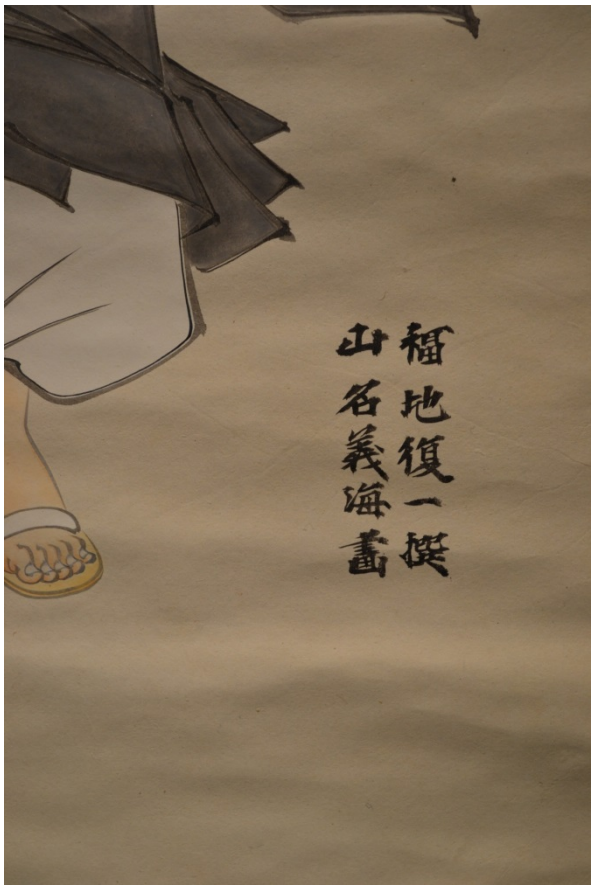


作品番号：72-16
作品名：朝賀図（*）
作者名：大石真虎
法量（単位cm）：91.9×88.5
素材：紙本着色
備考：一高受け入れ年度　明治25年（1892）3月25日

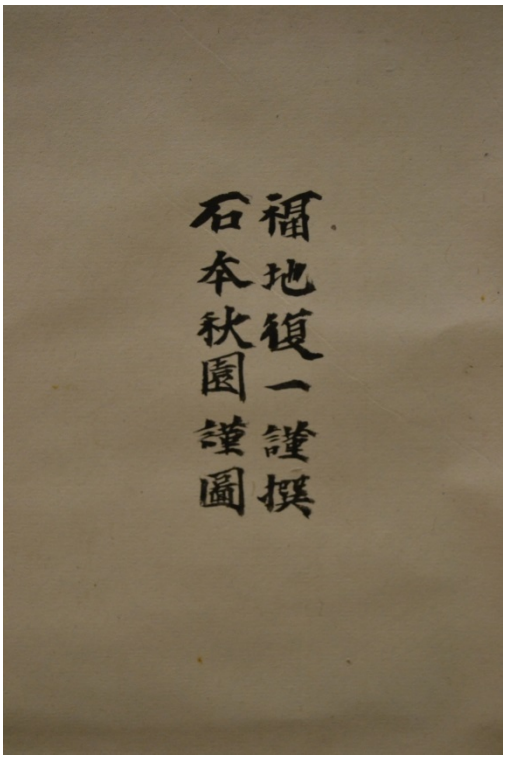




作品番号：72-17
作品名：鎌倉幕府時代山僧図（*）
作者名：山名義海
法量（単位cm）：80.0×55.0
素材：紙本着色
備考：一高受け入れ年度　明治26年（1893）3月4日

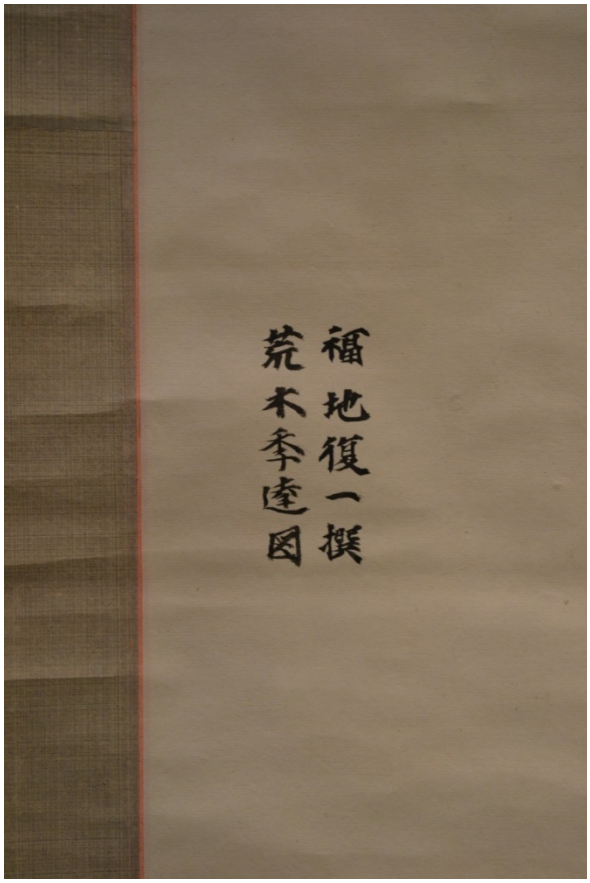


作品番号：72-18
作品名：大礼服着御図（*）
作者名：石本秋園
法量（単位cm）：95.5×63.5
素材：紙本着色
備考：一高受け入れ年度　明治26年（1893）3月4日

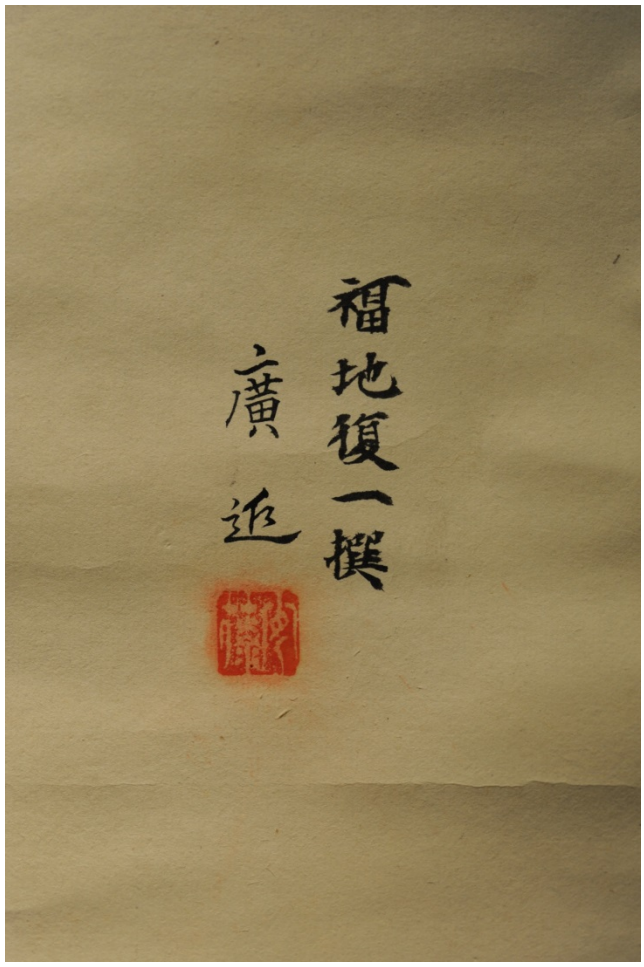


作品番号：72-19
作品名：鎌倉纂府時代騎射図（*）
作者名：大橋月州
法量（単位cm）：78.0×113.0
素材：紙本着色
備考：一高受け入れ年度　明治26年（1893）3月4日

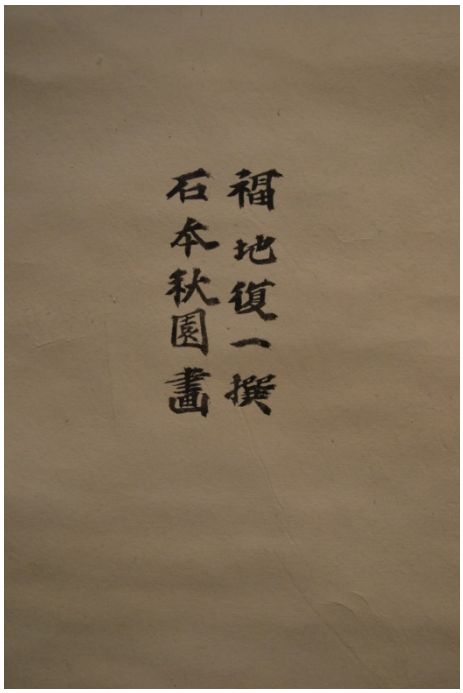
作品番号：72-20
作品名：弘仁時代大臣図（*）
作者名：荒木季達
法量（単位cm）：81.0×53.5
素材：紙本着色
備考：一高受け入れ年度　明治26年（1893）3月4日



作品番号：72-21
作品名：寧樂朝時代大臣図（*）
作者名：安藤廣近
法量（単位cm）：76.0×86.5
素材：紙本着色
備考：一高受け入れ年度　明治25年（1892）11月28日



作品番号：72-22
作品名：室町幕府時代小児遊戯図（*）
作者名：石本秋園
法量（単位cm）：92.5×61.5
素材：紙本着色
備考：一高受け入れ年度　明治26年（1893）3月4日

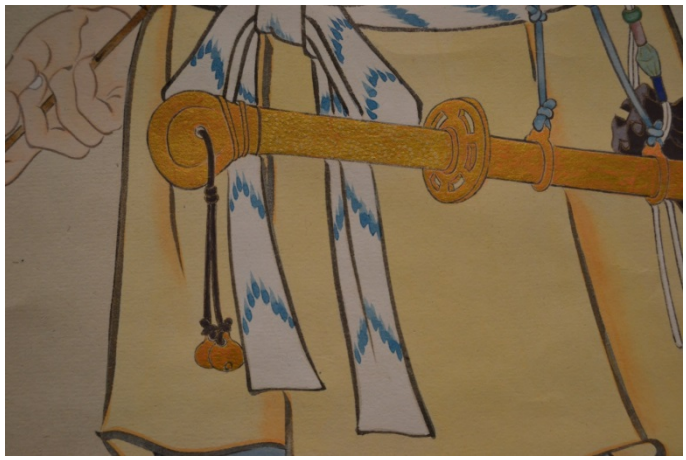


作品番号：72-23
作品名：寧楽朝時代貴公子之図（*）
作者名：石本秋園
法量（単位cm）：73.0×65.0
素材：紙本着色
備考：一高受け入れ年度　明治25年（1892）11月28日

作品番号：72-24
作品名：弘仁時代内親王之図（*）
作者名：石本秋園
法量（単位cm）：120.0×61.0
素材：紙本着色
備考：一高受け入れ年度　明治25年（1892）11月28日

作品番号：72-25
作品名：鎌倉幕府時代婦人旅装図（*）
作者名：住吉廣一
法量（単位cm）：79.0×60.5
素材：紙本着色
備考：一高受け入れ年度　明治26年（1893）3月4日

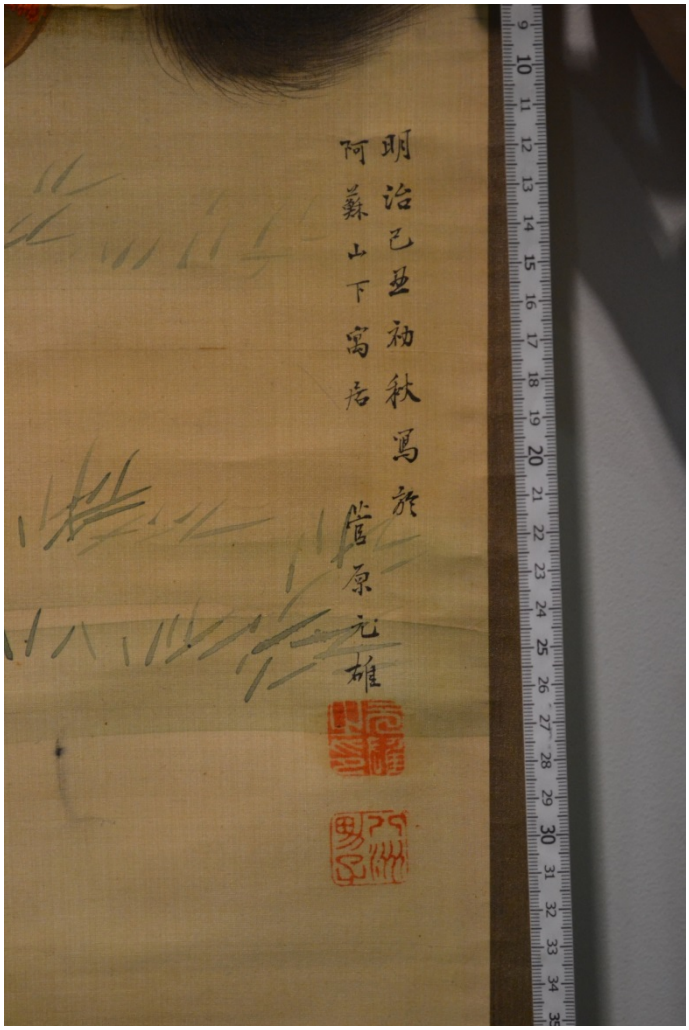
作品番号：72-26
作品名：上代人物図（*）
作者名：石本秋園
法量（単位cm）：92.5×44.0
素材：紙本着色
備考：一高受け入れ年度　明治26年（1893）3月4日

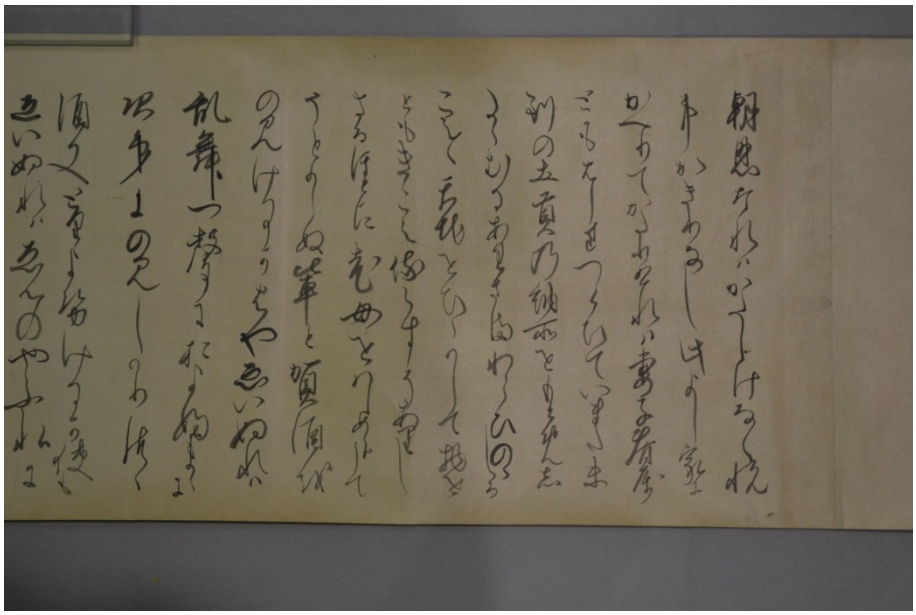


作品番号：72-27
作品名：源平時代武将図（*）
作者名：小堀鞆音
法量（単位cm）：76.0×90.5
素材：紙本着色
備考：一高受け入れ年度　明治26年（1893）3月4日

作品番号：72-28
作品名：仁徳帝時代武将之図（*）
作者名：小堀鞆音
法量（単位cm）：54.0×75.0
素材：紙本着色
備考：一高受け入れ年度　明治25年（1892）11月28日

作品番号：72-29
作品名：田村麻呂之図（☆☆）
作者名：菅原元雄
法量（単位cm）：148.0×56.5
素材：絹本着色
備考：一高受け入れ年度　明治25年（1892）3月25日



作品番号：72-30
作品名：寛文年間美少年若衆ト唱フ図（*）
作者名：亀岡末吉
法量（単位cm）：98.0×74.0
素材：紙本着色
備考：一高受け入れ年度　明治26年（1893）3月27日

作品番号：72-31
作品名：絵師草紙（模写）
作者名：横山秀麿（大観）
法量（単位cm）：32.5×819.9
素材：紙本着色
備考：一高受け入れ年度　明治27年（1894）4月19日